

去る1月にも、ここで、香港ラマ島を紹介した。

今回、また、機会があり訪問し、ここで二晩を過ごすこととなった。

今回の撮影は、公共フェリー棧橋側からとらえたものである。

フェリーを降りるとこの風景が広がる。山の上にまで建ちならぶ家々は、坂の町、長崎をちょっと彷彿させる。

だが、建物の構造は白色四角の鉄筋コンクリート。そしてそれぞれにバルコニーをもつ。

これをフラット(宿舎、アパート)と称し、英国人の使う英語である。

このフラットの並びは、島の奥にもずっと広がる。

その住人は香港の人々が主体である。

そして週末はリゾートとしてレンタルルームとしても斡旋される。

香港セントラルまでフェリーで20分は、何かと便利がいいのである。

また、英国人も多く住む。通勤時間帯のフェリー客の30パーセント弱は英国人のようでもある。

ここで見られるのは、香港の英国殖民地時代の名残である。(決して悪い意味ではない)

島の中心部には、数多くのレストランやパブがあり、どれも深夜まで賑う。

そこは英国人だけの集まりであり、ここに入って客になることには躊躇する。空気が異なるのだ。

それでは、今回宿泊所として斡旋してもらったところを紹介しよう。

画面中央に見える空色の建物の右隣のフラットである。

そばに見える”SAMPAN SEAFOOD “の赤い文字のあるのは、有名海鮮レストランのひとつ。

2007年、浜崎あゆみが香港コンサートツアーの途中、ラマ島を訪問し、ここで食事をした由。

ラマ島旅行の誰かのブログで見つけた情報であり、真偽のほどは定かでないが。

